



# シナジー促進に向けた取組

2026年3月10日  
地球環境局国際連携課

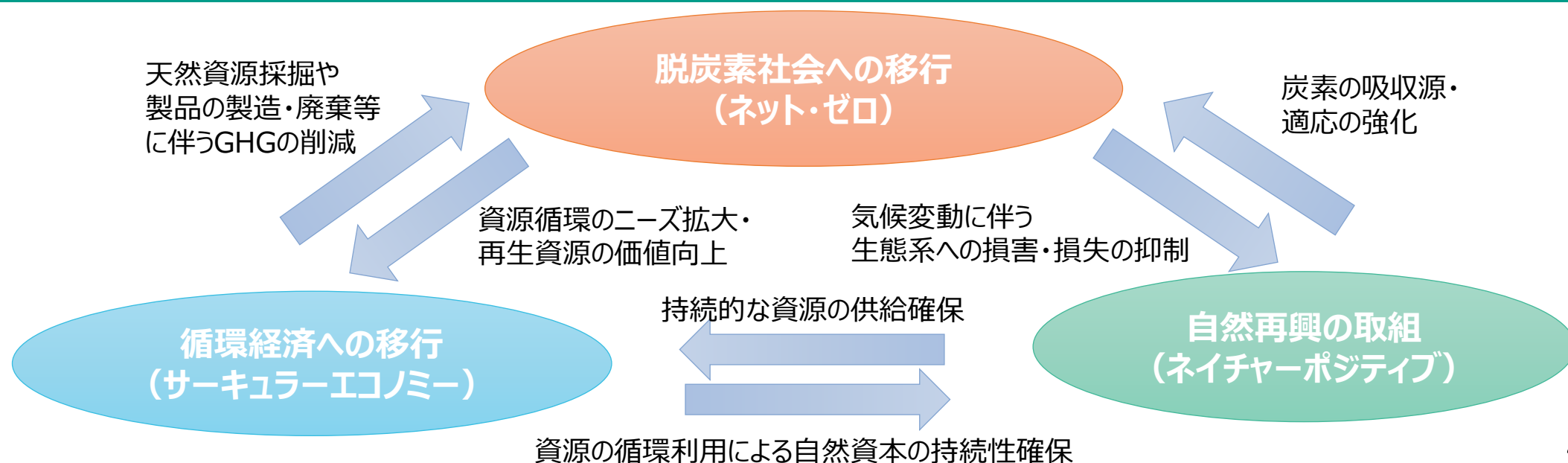


- 我々の地球は、気候変動、生物多様性の損失及び汚染という3つの世界的危機並びに進行中の世界的なエネルギー危機からの未曾有の課題に直面している。我々は、この勝負の10年に行動を拡大することにより世界の気温上昇を摂氏1.5度に抑えることを射程に入れ続け、2030年までに生物多様性の損失を止めて反転させ、エネルギー安全保障を確保するとともに、これらの課題の相互依存性を認識し、シナジーを活用することで、パリ協定へのコミットメントを堅持する。

(2023年5月 G7広島首脳コミュニケより)

- 持続可能な社会の姿、循環共生型社会を実現するため、環境・経済・社会の統合的向上の高度化に向け、ネット・ゼロ、循環経済、ネイチャーポジティブ等といった個別分野の環境政策を統合的に実施し、相乗効果（シナジー）を発揮させ、経済社会の構造的な課題の解決にも結びつけていく。

(2024年5月閣議決定 第6次環境基本計画 51pより)



# 地球環境問題の統合的解決に向けたシナジー促進決議の採択



- 気候変動、生物多様性の損失、汚染の3つの世界的危機に統合的に対処し、SDGsの達成に貢献するために、**取組間の相乗効果（シナジー）**を発揮させることが重要。
- 我が国は、第6回及び第7回国連環境総会（UNEA6：2024年3月及びUNEA7：2025年12月）にて、**シナジー促進決議及びその後継決議をそれぞれ提案し、いずれも採択**された。

決議名	シナジー・協力・連携の国際環境条約及び他の関連環境文書の国内実施における促進に関する決議
<b>UNEA6 決議概要</b> (コスポンサー：フィジー、カナダ、チリ、スイス、ノルウェー、ペルー)	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 加盟国に対し、国際環境条約等の義務等を実施する際、シナジー等を強化し、優良事例を収集・共有し、情報交換の強化によりシナジー等の潜在的なコベネフィットに関する知識と理解を深めることを奨励</li><li>✓ UNEP事務局長に対し、シナジー等を改善するため、要請に応じて加盟国を支援し、優良事例・ツール・成功事例や教訓を収集、統合、共有し、実施状況をUNEA7で報告することを要請</li></ul>
<b>UNEA7 決議概要</b> (共同提案国：パナマ コスポンサー：アルメニア)	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ UNEA6シナジー決議に立脚しつつ、ステークホルダーやパートナーとの協力等を通じた、国レベル・ローカルレベルにおける更なるシナジー実現のための追加的アプローチの模索を加盟国に奨励</li><li>✓ また、地域協力機関に対する多国間協力やマルチステークホルダーの協力におけるシナジーの発揮促進を招請するとともに、UNEP（国連環境計画）事務局長へシナジー促進のための各種行動を要請</li></ul>

## シナジー促進決議の実施に関する環境省の取組

- **国連環境計画（UNEP）に拠出金を拠出し**、シナジーの好事例の収集・共有等のUNEPの活動を支援。
- **アジア太平洋シナジーレポート**を、国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）、アジア開発銀行（ADB）、UNEP等と連携しとりまとめ、第7回気候とSDGsのグローバルシナジー会合（2026年6月）またはESCAP閣僚会合（2026年7月）等で公表予定。
- **環境研究総合推進費**により、SDGs達成への変革のためのシナジー強化とトレードオフ解消に関する研究を推進



▲アジア太平洋シナジーレポート執筆者会合

# アジア太平洋シナジーレポートの概要

- **目的**：世界人口の60%以上を擁するアジア太平洋地域におけるSDGsの達成の遅れに対処するため、施策間のシナジー（相乗効果）を最大化する必要がある。このため、具体的なケーススタディ、戦略的ガイダンス等をとりまとめ、アジア太平洋地域の政府や関連組織が相乗効果を発揮する施策・対策（シナジーアプローチ）を効果的に実施できるように支援する。

- **主な執筆者**：



ベルナディア・イラワティ・  
チャンドラデウィ（尼）

都市・自治体連合アジア太  
平洋地域支部  
(UCLG-ASPAC)  
事務局長



武内 和彦（日）

公益財団法人  
地球環境戦略研究機関  
(IGES)  
理事長



馬 軍（マー・ジュン）（中）

中国 公衆と環境研究  
センター (IPE)  
代表



ソウミヤ・スワーミナタン  
（印）

M・S・スワミナサン研究財団  
(MSSRF)  
理事長

＜参考＞

リード機関：ESCAP、  
ADB、UNEP-ROAP  
スポンサー：日本国環境省  
事務局：IGES

- **主な内容**：

冒頭	概要要約	第6章	ファイナンス
第1章	序論・シナジーについて	第7章	データとツール
第2章	気候と健康	第8章	ガバナンス
第3章	生物多様性とネイチャー・ポジティブ	第9章	結び・今後に向けて
第4章	汚染と循環経済	付録	100以上のシナジー事例集
第5章	都市とレジリエンス		

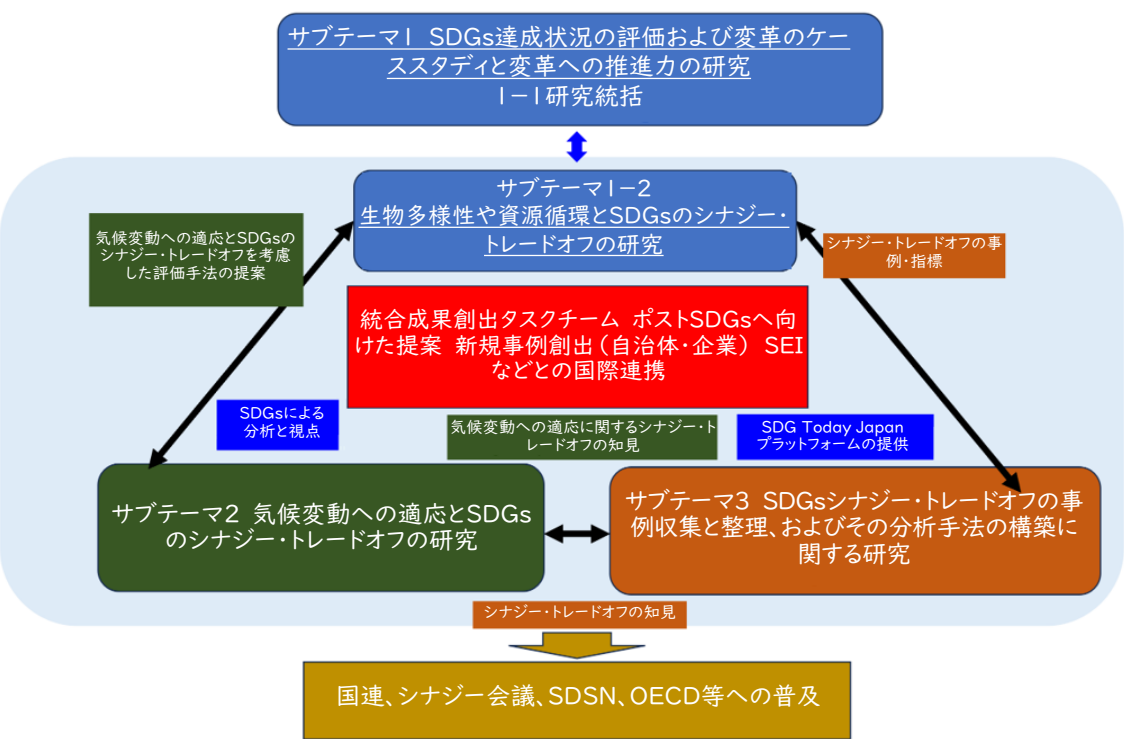
- **今後の予定**：

- ・ 2026年2月のAPFSDイベントにて、最終段階にある本レポートを紹介。参加者と議論を行う。
- ・ 2026年6月の「第7回パリ協定とSDGsのシナジー強化に関する国際会議」等で公表予定。また、同年7月のESCAP-CED(環境と開発委員会)閣僚級会合では、レポート作成を通じ抽出されたシナジー促進のためにとるべき行動を反映した、閣僚宣言の下でのESCAP-CED地域行動計画（次期4か年）が採択される予定。各国でのシナジー実装に向けた地域の指針とすることを目指す。さらに、HLPF2026などの関連会合で発信予定。

# SDGs 達成への変革のためのシナジー強化とトレードオフ解消に関する研究

## 研究の全体目標

- 世界基準に耐えうるSDGs目標達成の評価（定性的および定量的）
- 適応策、緩和策、生物多様性、サーキュラーエコノミー等の環境政策課題に特に重点を置いて、SDGsターゲット間のシナジー効果を促進し、トレードオフを解消する事例の提示、および変革のための政策や企業戦略の具体的なツールの開発と実装
- 学術的な研究手法の開発
- 研究成果の普及と、アジアと国連における変革の促進



## 各サブテーマの研究目的

サブテーマ1 慶応義塾大学
SDGsの進捗の評価、変革のケーススタディ、変革を促すレバー(テコ)の特定
サブテーマ2 アメリカ 国立環境衛生科学研究所
気候変動への適応とSDGsのシナジー・トレードオフ
サブテーマ3 地球環境戦略研究機関
シナジー・トレードオフ、およびケーススタディに関するデータベースとツールの開発

---

# 2025年度の主要国際会議を通じた シナジー促進のための発信

---



# 第6回パリ協定とSDGsのシナジー強化に関する国際会議



- 日時： 2025年5月27日（火）～5月28日（水）
- 会場： UN City, Copenhagen
- 主催： 国連経済社会局（UNDESA）・UNFCCC事務局
- ホスト：デンマーク外務省
- 会議のテーマ： Unleashing Synergies Towards on Equitable, Climate-Resilient and Sustainable Future（衡平で、気候変動に強靱な持続可能な未来のために）

Day 1 - Tuesday, 27 May 2025

8:00	Registration
9:00	Conference Opening and High-level Segment: Solidarity, Equality, Sustainability (90 minutes)
10:30	Coffee & Networking Break (30 minutes)
11:00	Introduction and Scene-Setting: The benefits and challenges of tackling climate and SDG actions in synergy – from global to local levels (30 minutes)
11:30	Roundtable Discussion 1 (90 minutes)
11:30	Financing the Future We Want: Seeking synergies between climate finance goals and the Financing for Development Conference
13:00	Lunch Break (60 minutes)
14:00	Roundtable Discussion 2 (90 minutes)
14:00	Leveraging NDC 3.0 to co-invest in climate action and the 2030 Agenda.
15:30	Coffee & Networking Break (30 minutes)
16:00	Synergy Voices: multi-stakeholder dialogue (60 minutes)
17:30	Fireside Chat with distinguished guest(s) (30 minutes)
18:00	Networking Reception

Day 2 - Wednesday, 28 May 2025

8:00	Registration
9:00	Opening for Day 2 (60 minutes)
10:00	Coffee & Networking Break (30 minutes)
10:30	Parallel Thematic Sessions (Round 1) (90 minutes)
12:00	Lunch Break (60 minutes)
13:00	Parallel Thematic Session (Round 2) (90 minutes)
14:30	Coffee and Networking Break (30 minutes)
15:00	Presentations of Session & Conference Summaries, Closing Statements (60 minutes)

〔 〕の部分（開会式およびハイレベルセグメント）で環境大臣ビデオメッセージを発信

## ■ 会合の成果

- 気候変動対策とSDGs推進におけるシナジー推進の重要性を指摘、シナジーの世界的拡充に向けた各国の取り組みを紹介し、社会変革に向けた行動推進が呼びかけられた。
- 環境大臣ビデオメッセージで、「アジア太平洋シナジーレポート」作成への取組などが紹介された。

HLPF2025閣僚級会合（2025年7月21日～23日 於国連本部）に土居地球環境審議官が出席。以下のイベント等に対応。

## 1. スペシャルイベント「気候変動とSDGsのシナジー強化による2030年に向けた加速的取り組み」

UNDESA（国連経済社会局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）が主催。土居地球審議官から、**on the ground** のシナジーの具体例の重要性や、「アジア太平洋シナジーレポート」の作成目的や活用への期待、来年のHLPF2026で同レポートの成果を発信する意向を表明。また、専門家グループによる3つのテーマ別報告書が発表された。

## 2. サイドイベント「SDGsを超えて：ラウンドテーブル対話」

慶應義塾大学が主催、日本国環境省が環境研究推進費で一部支援。H2030年以降の「Beyond SDGs」に関し、専門家や各国の担当者等多様なステークホルダーで非公式のラウンドテーブル対話を実施。

## 3. 関係機関や国とのバイ会談の実施

UNDESA、国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）、オマーン国（UNEA7議長）等の事務局長や大臣と会談を実施。UNEA6のシナジー決議に関する取組の進捗や、UNEA7へのシナジー決議の提案予定、アジア太平洋シナジーレポートについての意見交換等を行った。



＜スペシャルイベント＞



＜ラウンドテーブル対話＞



＜国際機関とのバイ会談＞



第6回アジア太平洋閣僚・環境当局フォーラム（8月26日～30日、於フィジー）に環境省小川特別国際交渉官が出席、各会合での発言やサイドイベントへの登壇、各国との会談を実施。

## 1. サイドイベント「アジア太平洋地域における多国間環境協定の国内実施に向けた連携・協力・シナジーの促進」

**日本国環境省がホスト。**小川交渉官から、国連環境総会（UNEA6）のシナジー決議採択、「アジア太平洋シナジーレポート」の紹介、及び**UNEA7で新たな決議提出を予定している旨の挨拶**を実施。その後、「**アジア太平洋シナジーレポート**」の執筆者から進捗を紹介。また、当フォーラムホスト国フィジーの環境大臣、UNEA7議長国オマーン環境大臣他、各国政府や国際機関のハイレベルが参加し、シナジーに関連する様々な方針や具体例が共有され、同地域におけるMEAsの実施に向けて協力する機会となった。



サイドイベント登壇者

## 2. 関係機関や国とのバイ会談の実施

国連環境計画（UNEP）、オマーン国（UNEA7議長国）、オーストラリア、モンゴルと会談を実施。**UNEA7に向け、シナジー決議の提出に関する意見交換**を行った。

## 3. サイドイベント、フォーラムの議題への参加

各種サイドイベントにおいて小川交渉官ほか出張者がパネリストとして登壇。また、フォーラムの各議題で日本のステートメントを実施し、**UNEA6以降の国内での取組やアジア太平洋地域への貢献、UNEA7に向けたシナジー決議提出の可能性について表明**した。



日本のステートメント実施

第13回持続可能な開発に関するアジア太平洋フォーラム（APFSD：2026年2月24日～27日 於タイ・バンコク）において**関連イベントを開催し、アジア太平洋シナジーレポートの実践事例の共有、成功要因、課題解決方策及び提言について議論**

## テーマ 「環境課題への対応とSDGs達成に向けたシナジーをもたらす取組」

“Synergistic Practices to Addressing Environmental Challenges and Achieving the SDGs”

**日時** 2025年2月23日（月）13:00～17:00

**主催** 日本国環境省、 アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）、アジア開発銀行（ADB）、国連環境計画（UNEP）、地球環境戦略研究機関（IGES）

## 概要

- ・レポート執筆に携わる専門家、関係国・国際機関が集い、地球規模課題への対応とSDGsの達成に貢献するシナジーアプローチについて様々な主体から見解を共有。
- ・シナジーが図られた解決策を導き出すための手段として、資金、データやツール、ガバナンスについても議論。専門家による議論や参加者との対話を通じて、地方、国、アジア太平洋地域の政府機関や関係支援機関への政策提言に向けた意見交換を行った。



イベント登壇者



イベント会場の様子

※持続可能な開発に関するアジア太平洋フォーラム

（Asia-Pacific Forum on Sustainable Development, APFSD）

アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）主催により年1回開催される、アジア太平洋地域の政府間の閣僚級フォーラム。加盟国の他、国際機関や民間企業等オブザーバーとして参加し、アジア太平洋地域におけるSDGsの実施、フォローアップ及びレビューを行うもの。

## 今後の国際会議でのシナジーの発信（予定）



2026年6月  
バンコク（タイ）

第7回パリ協定とSDGsのシナジー強化に関する国際会議

2026年7月  
バンコク（タイ）

国連アジア太平洋経済社会委員会 第9回環境と開発委員会  
閣僚級会合（ESCAP-CED）

2026年7月  
ニューヨーク（米国）

国連持続可能な開発のためのハイレベル政治フォーラム（HLPF）

2026年11月  
アンタルヤ（トルコ）

国連気候変動枠組条約締約国会議（COP31）

2027年2月  
バンコク（タイ）

第14回持続可能な開発に関するアジア太平洋フォーラム（APFSD）

2030年以降の持続可能な開発  
に関する議論への環境側面からのインプット